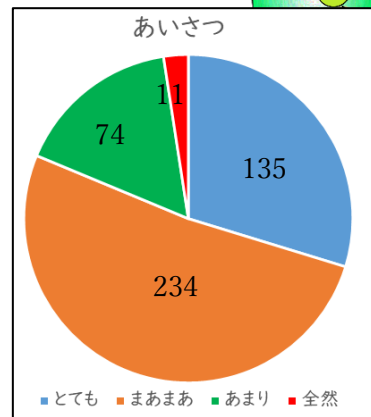




あいさつが飛び交う学校に!part2

今日は、むらさき朝会がありました。むらさき朝会は校長の話や、生徒指導担当からの話などがあり、校内全員で生活上の課題やよかったところを共有し、自分自身のこととして考え、共通実践に繋げるための時間だと考えています。

そこで、今日は昨日の学校便りでもお知らせした「あいさつ」について話をしました。まずは今月の生活目標が「あいさつ」の目標ですので、そこから「あなたは誰にでも立ち止まってあいさつをしますか?」と2年生以上にタブレットで回答してもらいました。Zoom上から、アンケートフォームに入ることができるQRコードを一人一人タブレットで読み取って入ってもらい、即時に回答を得ることができます。すると約81%この子供たちが「とても」「まあまあ」できていると答えました。



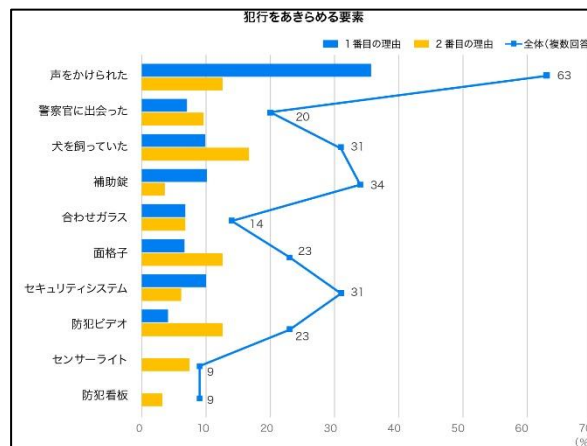
次に、「あいさつができない理由」について知らせました。理由として「恥ずかしい、慌てている、あいさつの仕方がわかっていない、相手に気付いていない、自分はできていると思っている」が挙げられます。そして、そもそもなぜあいさつをするのかを問いました。昨日の学校だよりにあいさつのメリットを述べましたが、子供たちには「互いに気持ちよくなる」と説明しました。みんなが進んであいさつをするようになると、学校教育目標の「豊かな心で主体的に活動し、みんなが『わくわく』する学校創り」にも近付くことを伝えました。そして、本校の生徒指導主任である兒玉先生に実際にあいさつをしてもらいました。最初は、すれ違って無言で素通りしていくという悪い見本です。子供たちには、その気づきを答えてもらうという双方向型ですので、「立ち止まっていない」とか「元気がない」など学級から手を挙げてもらって全員で共有しました。そして、気持ちのよいあいさつのためのヒント(昨日お知らせした児童玄関の掲示物)を知らせ、兒玉先生に最高のあいさつを披露してもらいました。最後に教室でペアになってあいさつの練習をして終わりました。

子供たちにも是非実践してもらい、あいさつの飛び交う学校になって、たくさん帯西グリーンが活躍してほしいと思います。

あいさつが生む防犯効果

アルソックのHPによると、「あいさつには、近所や地域の住人との相互認知やコミュニケーションの機会をつくるなど、つながる効果が期待できます。周囲とつながることによって、自然と地域コミュニティが形成されて地域外の外部者に対するチェック機能がはたらくようになるのです。そして、このチェック機能こそが空き巣などの犯罪抑止に効果を発揮します。犯罪を行おうとする不審者は必ず事前に現場を下見します。警視庁の調査によれば、この下見の時に犯行をあきらめた理由で多いのが『近所の人に声をかけられたり、ジロジロみられたりした』なのです。」と掲載されています。

朝起きてから、家族同士で「おはよう」と声を掛け合うことからあいさつは始まるのです。そうしていい一日のスタートがきれます。まさにあいさつは、「百利あって一害なし」なのです。



出典:警察庁「住まいる防犯110番」